社会福祉法人 祥風会

桜川保育園
〒300-0048 土浦市田中三丁目４番５号
【TEL】029-821-8341 【FAX】029-823-0390
【E-mail】sakuragawa@showfukai.com
【URL】http://showfukai.com/
【発行責任者】施設長　宇都野 和司

※掲載写真は、保護者の同意を得ています。

桜川保育園 だより

プール遊び 最高！！

例年の『プール開き』は7月1日ですが、今年は天候不順により、7月12日に行いました。この日は、真夏の太陽が照り付ける中、「事故やケガをすることがなく、無事にプールを楽しめますように」と塩や酒をプールに入れ、園長が榊で園児一人ひとりの頭をなでながらお祓いをし、その後、みんなで一斉に手を合わせて安全を祈願しました。

7月中はプール活動が思うようにできずにいましたが、8月に入ると焼けるような日差しが照り付け、本格的な夏の到来とともに、思う存分プール遊びを楽しむことができました。

保育園でのプール活動のねらいは、「水の感触に慣れ、水遊びを楽しむ」などがありますが、子どもたちは保育者の指導によって、活動のねらいどおり、プールの中で手足を動かしたり、パシャパシャと水しぶきをあげたりして遊ぶほか、年長児では水中に潜ることや浮くことができるなど、この夏で大きな成長の跡が見られました。

お楽しみ会

6月24日

今年も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で「桜川保育園まつり」を開催することができませんでした。そこで、昨年同様、全園児参加による「お楽しみ会」の開催となりました。

「魚釣り」など、それぞれのコーナーには看板が設置され、いつものホールが賑やかな雰囲気となりました。

年長児が手伝いをしている各コーナーでは、この日を楽しみに待っていた子ども達が終始ニコニコしながら遊びを満喫していました。

◎「バルーンアート」

さまざまな形に変身したバルーンの中でもアンパンマンが人気でした。

◎「くじ引き」

たくさんある紐の中から好きな紐を 1 本引っ張ると紐の先には…

みんなの欲しいものは、出てきたかな…

未だに先が見えない新型コロナウイルス感染症により、各地のさまざまなイベントが中止または延期となり、とても残念でなりません。

当園では、保育の中でも今までの当たり前を見直し、試行錯誤しながらも、子ども達の安心安全を考え、今後も保育園での生活を楽しい時間にしていきたい思います。

◎「輪投げ・的当て」

今年のお楽しみ会では、輪投げと的当てのコーナーが登場し、夢中になって投げていました。

◎「魚釣り」

子ども達が描いたカラフルな模様の魚たち。

「どれにしようかな～。」と覗き込む姿は可愛らしく、釣り上げた魚（？）を手にして喜んでいました。

夕涼み会

7月16日

「そら組」（5歳児）の子どもたちによる『夕涼み会』では、当日夕食のカレーの食材を近所のスーパーに買いに行ったり、宝探しや絵本の世界を冒険したりと普段できないことをたくさん経験する中で、子どもたちの大きな成長を感じました。また、花火を親子で楽しむことができ、思い出に残るひと時となりました。

当日に向けた準備では、題材絵本（めっきらもっきらどおんどん）の世界観と子どもたちのイメージするものを一体化させてグループごとに作り上げ、クラス全体で一つのものを完成させる楽しさを味わいました。その中で相手の意見を聞き入れることを学び、友だちと力を合わせることでより良いものができあがる面白さにも気づくことができたようです。

消防署見学　6月16日

私たちの生活を守ってくれる消防の仕事を知るために「そら組」が『土浦消防署』を見学しました。消防自動車や救急車を目の前にして説明を受けたり火災の時に着る服やヘルメットを着けて記念写真を撮ったりしたほか、救助訓練の様子を初めて見学しながら大声援を送っていました。「大きくなったら消防士になりたい」と思った人も多かったようです。

七夕飾り

毎年７月７日は、織姫と彦星が１年に１度だけ、天の川で会える日とされています。七夕には笹竹に願いを書いた短冊を飾るのが恒例となっていますが、短冊を飾るのは、織物の上手な織姫のように「物事が上達しますように」とお願い事をしたのが始まりだと言われています。また、笹の葉に短冊を飾ると、織姫と彦星の力で願いが叶えられ、悪いものから守ってくれるという言い伝えがあります。

本園では玄関の笹竹に願い事を書いた短冊を親子で結び、飾り付けをしています。皆さんの願い事が叶うといいですね。

野菜作り　初めての挑戦

今年度「つき組」の子どもたちは、初めて夏野菜作りに挑戦しました。

まずは、土作りから始め、土の感触を楽しみながら野菜の種や苗植え、水やり、草取りから収穫まで一通りの野菜作りを経験し、『見る』、『触れる』、『食べる』といった様々な経験をすることができました。

種まきから行った『かいわれ大根』や『ラディッシュ』作りでは、種から芽が生えてくる様子を見て、驚き喜ぶ姿がありました。『きゅうり』、『ナス』、『ミニトマト』、『インゲン』の苗植えでは、苗から本当に野菜が収穫できるのか不思議そうな顔を見せながらも、優しく土に植え、「大きくなりますように」と願いながら、水やりや草取りに励んでいました。

収穫した野菜は手作りならではの不格好なものもあり、それをみんなで眺めたり、笑ったりして収穫の喜びを分かち合うことができました。それぞれ家庭に持ち帰り、翌日には「かいわれ大根、ハムに巻いて食べたよ」、「なすはママが味噌汁に入れてくれた」、「きゅうりは味噌をつけて食べたんだ」と笑顔で報告してくれる子もいました。『ミニトマト』はとても甘くて、おやつの時間にみんなで食べるとおかわりを求めて行列ができるほどでした。保護者の皆様からも「普段は苦手な野菜を自分で育てたということで、口にすることができました」という報告もあり、とても嬉しく感じました。普段何気なく食べてる野菜でも自分で作ったものだと食べてみようという意欲や愛着が湧いてくるようです。

今年度は、コロナ禍ということもあり、収穫した野菜を自分たちで調理して食べるということが難しい状況でしたが、来年度に向けての良いステップにもなりました。ぜひ来年度は子どもたちが育てた野菜を自ら調理し、みんな一緒に味わう経験をしてもらいたいです。

第50回 花いっぱい運動コンクール

「花いっぱい運動コンクール」は土浦市まちづくり市民会議が毎年実施しているもので、今年度は記念すべき50回を迎えました。そのコンクールに本園が初めて応募し、最優秀賞となる『議長賞』を受賞しました。

昨年度開園した本園の花壇は、当初たくさんの石が混じっていたり粘土質で固まっていたりしたため、1年をかけて石を除去しながら肥料や赤土を入れ、土づくりから始めました。

門の両脇には、市から配布されたサルビアとマリーゴールドのほか、保育園で育てたコキアを配置して立体感をもたせました。また、駐車場にはコキアのほかに種から育てたマリーゴールドをそれぞれ等間隔に配置し、毎日通う園児や保護者に喜んでもらうために水やりも毎日行ってきました。

最優秀賞
受賞

花の手入れや雑草の除去は、午前中の屋外活動の中で、保育士と子どもたちが一緒になって行うなど、花いっぱい運動にたくさんの人が協力してくれました。

子どもたちは、自然と触れ合いながら楽しそうに植物や花の成長について学ぶことができたので、来年度もみんなで挑戦し、『最優秀賞２連覇』を目指していきたいです。